

(19) 日本国特許庁(JP)

## (12) 公表特許公報(A)

(11) 特許出願公表番号

特表2010-511049

(P2010-511049A)

(43) 公表日 平成22年4月8日(2010.4.8)

(51) Int.Cl.	F 1	テーマコード (参考)
<b>C07C 51/367</b> (2006.01)	C07C 51/367	4 G 1 6 9
<b>C07C 65/03</b> (2006.01)	C07C 65/03	B 4 H 0 0 6
<b>C07C 65/10</b> (2006.01)	C07C 65/10	4 H 0 3 9
<b>B01J 31/22</b> (2006.01)	B01J 31/22	Z 4 J 0 4 3
<b>C08G 73/18</b> (2006.01)	C08G 73/18	

審査請求 未請求 予備審査請求 未請求 (全 22 頁) 最終頁に続く

(21) 出願番号	特願2009-539299 (P2009-539299)	(71) 出願人	390023674 イー・アイ・デュポン・ドウ・ヌムール・ アンド・カンパニー E. I. DU PONT DE NEMO URS AND COMPANY アメリカ合衆国、デラウエア州、ウイルミ ントン、マーケット・ストリート 100 7
(86) (22) 出願日	平成19年11月28日 (2007.11.28)	(74) 代理人	100127926 弁理士 結田 純次
(85) 翻訳文提出日	平成21年6月30日 (2009.6.30)	(74) 代理人	100140132 弁理士 竹林 則幸
(86) 國際出願番号	PCT/US2007/024474	(74) 代理人	100091731 弁理士 高木 千嘉
(87) 國際公開番号	W02008/066827		
(87) 國際公開日	平成20年6月5日 (2008.6.5)		
(31) 優先権主張番号	11/604, 942		
(32) 優先日	平成18年11月28日 (2006.11.28)		
(33) 優先権主張国	米国 (US)		

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 ヒドロキシ芳香族酸の合成方法

## (57) 【要約】

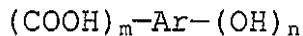
ヒドロキシ芳香族酸は、銅源および銅に配位する配位子を含有する反応混合物中のハロゲン化芳香族酸から高収率および高純度 (> 95 %) で製造される。

## 【特許請求の範囲】

## 【請求項 1】

式 I

## 【化 1】



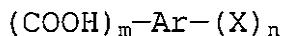
I

(式中、ArはC<sub>6</sub>～C<sub>20</sub>アリーレンラジカルであり、nおよびmはそれぞれ独立してゼロではない値であり、そしてn+mは8以下である)

の構造で一般に記載されるヒドロキシ芳香族酸の製造方法であって、

(a) 式 I I

## 【化 2】



II

(式中、各Xは独立して、C1、BrまたはIであり、そしてAr、nおよびmは上述の通りである)

の構造で一般に記載されるハロゲン化芳香族酸を水中で塩基と接触させて、水中で前記ハロゲン化芳香族酸の相当するm-塩基性塩をそれから形成する工程と、

(b) 前記ハロゲン化芳香族酸のm-塩基性塩を水中で塩基と、および銅に配位する配位子の存在下に銅源と接触させて、少なくとも約8の溶液pHでヒドロキシ芳香族酸のm-塩基性塩を前記ハロゲン化芳香族酸のm-塩基性塩から形成する工程であって、前記配位子がシップ塩基を含む工程と、

(c) 場合により、前記ヒドロキシ芳香族酸のm-塩基性塩を、それが生じている反応混合物から分離する工程と、

(d) 前記ヒドロキシ芳香族酸のm-塩基性塩を酸と接触させてn-ヒドロキシ芳香族酸をそれから形成する工程と

を含む方法。

## 【請求項 2】

工程(a)において、ハロゲン化芳香族酸を、ハロゲン化芳香族酸の1当量当たり少なくとも約2規定当量の水溶性塩基と接触させる請求項1に記載の方法。

## 【請求項 3】

工程(b)において、ハロゲン化芳香族酸のm-塩基性塩を、前記ハロゲン化芳香族酸のm-塩基性塩の1当量当たり少なくとも約2規定当量の水溶性塩基と接触させる請求項1に記載の方法。

## 【請求項 4】

工程(a)および(b)において、ハロゲン化芳香族酸の1当量当たり合計約n+m+1規定当量の水溶性塩基を、反応混合物に加える請求項1に記載の方法。

## 【請求項 5】

銅源が、Cu(0)、Cu(I)塩、Cu(II)塩、またはそれらの混合物を含む請求項1に記載の方法。

## 【請求項 6】

銅源が、CuCl、CuBr、CuI、Cu<sub>2</sub>SO<sub>4</sub>、Cu(NO<sub>3</sub>)<sub>2</sub>、CuCl<sub>2</sub>、CuBr<sub>2</sub>、CuI<sub>2</sub>、CuSO<sub>4</sub>、Cu(NO<sub>3</sub>)<sub>2</sub>、およびそれらの混合物からなる群から選択される請求項1に記載の方法。

## 【請求項 7】

配位子が、次式 I V :

10

20

30

40

## 【化3】



(式中、R<sup>1</sup>、R<sup>2</sup>およびR<sup>3</sup>はそれぞれ独立して、置換および非置換C<sub>1</sub>～C<sub>16</sub>のn-アルキル、イソ-アルキルおよび第三アルキル基、ならびに置換および非置換C<sub>6</sub>～C<sub>30</sub>アリールおよびヘテロアリール基から選択される)

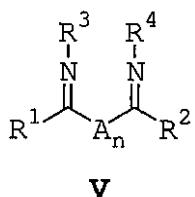
10

で一般に記載される請求項1に記載の方法。

## 【請求項8】

配位子が、次式V

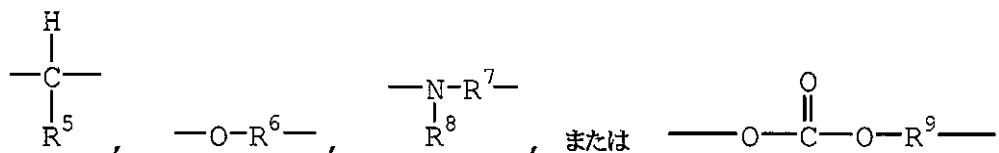
## 【化4】



20

(式中、Aは、

## 【化5】



30

からなる群から選択され、

R<sup>1</sup>、R<sup>2</sup>、R<sup>3</sup>およびR<sup>4</sup>はそれぞれ独立して、置換および非置換C<sub>1</sub>～C<sub>16</sub>のn-アルキル、イソ-アルキルおよび第三アルキル基；ならびに置換および非置換C<sub>6</sub>～C<sub>30</sub>アリールおよびヘテロアリール基から選択され、

R<sup>5</sup>は、H；置換および非置換C<sub>1</sub>～C<sub>16</sub>のn-アルキル、イソ-アルキルおよび第三アルキル基；ならびに置換および非置換C<sub>6</sub>～C<sub>30</sub>アリールおよびヘテロアリール基；ならびにハロゲンから選択され、

R<sup>6</sup>、R<sup>7</sup>、R<sup>8</sup>およびR<sup>9</sup>はそれぞれ独立して、Hまたは置換および非置換C<sub>1</sub>～C<sub>16</sub>のn-アルキル、イソ-アルキルもしくは第三アルキル基から選択され、そしてn=0または1である)

40

で一般に記載される請求項1に記載の方法。

## 【請求項9】

n=0であるか、またはR<sup>3</sup>およびR<sup>4</sup>が一緒になって2つの窒素原子に結合したC<sub>3</sub>-C-C<sub>3</sub>H<sub>3</sub>部分を形成する請求項8に記載の方法。

## 【請求項10】

配位子がN<sub>3</sub>-N'-ジメチル-2,3-ジイミノブタンおよびN<sub>3</sub>-N'-ジ(トリフルオロメチルベンゼン)-2,3-ジイミノエタンから選択される請求項1に記載の方法。

## 【請求項11】

銅源を配位子と、それらを反応混合物に加える前に組み合わせる工程をさらに含む請求

50

項 1 に記載の方法。

【請求項 1 2】

銅源が、 CuBr を含む請求項 1 に記載の方法。

【請求項 1 3】

塩基が、 Li、 Na、 K、 Mg、 または Ca の 1 つまたはそれ以上の水溶性の水酸化物、 リン酸塩、 炭酸塩、 または重炭酸塩の 1 つまたはそれ以上を含む請求項 1 に記載の方法。

【請求項 1 4】

銅が、 ハロゲン化芳香族酸のモルを基準として約 0.1 ~ 約 5 モル% の量で提供される請求項 1 に記載の方法。

10

【請求項 1 5】

配位子が、 銅の 1 モル当たり約 1 ~ 約 2 モル当量の量で提供される請求項 1 に記載の方法。

【請求項 1 6】

n - ヒドロキシ芳香族酸を n - アルコキシ芳香族酸に転化する工程をさらに含む請求項 1 に記載の方法。

【請求項 1 7】

n - ヒドロキシ芳香族酸を、 式  $R^9 R^{10} SO_4$  (式中、  $R^9$  および  $R^{10}$  はそれぞれ独立して、 置換または非置換  $C_{1-10}$  アルキル基である) のジアルキル硫酸と塩基性条件下に接触させる請求項 1 6 に記載の方法。

20

【請求項 1 8】

n - ヒドロキシ芳香族酸を、 それから化合物、 モノマー、 オリゴマーまたはポリマーが製造される反応に供する工程をさらに含む請求項 1 に記載の方法。

【請求項 1 9】

製造されたポリマーがピリドビスイミダゾール - 2, 6 - ジイル (2, 5 - ジヒドロキシ - p - フェニレン) ポリマーを含む請求項 1 8 に記載の方法。

【請求項 2 0】

n - アルコキシ芳香族酸を、 それから化合物、 モノマー、 オリゴマーまたはポリマーが製造される反応に供する工程をさらに含む請求項 1 6 に記載の方法。

30

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0 0 0 1】

本発明は、 中間体として、 またはポリマーを製造するためのモノマーとしての使用などの様々な目的に役立つ、 ヒドロキシ芳香族酸の製造に関する。

【背景技術】

【0 0 0 2】

ヒドロキシ芳香族酸は、 医薬品および穀物保護で活性な化合物をはじめとする多くの価値ある物質の製造で中間体および添加物として有用であり、 そしてまた、 ポリマーの製造でのモノマーとしても有用である。 サリチル酸 (o - ヒドロキシ安息香酸) は、 例えば、 アスピリンの製造に使用され、 そして他の医薬品用途を有する。「パラベン」として知られる、 p - ヒドロキシ安息香酸のエステルは、 食品および化粧品防腐剤として使用されている。 p - ヒドロキシ安息香酸および 6 - ヒドロキシ - 2 - ナフト酸はそれぞれ、 液晶ポリマーの成分として使用されている。

40

【0 0 0 3】

2, 5 - ジヒドロキシテレフタル酸 (「DHTA」) をはじめとする、 ヒドロキシ安息香酸の様々な製造は公知である。 Marzini は、 非特許文献 1 で、 銅粉の存在下での 2, 5 - ジブロモテレフタル酸 (「DBTA」) からの 2, 5 - ジヒドロキシテレフタル酸 (「DHTA」) の合成を教示している。

【0 0 0 4】

Singh は、 非特許文献 2 に、 KOH および銅粉の存在下での DBTA とフェノー

50

ルとの縮合によるDHTAを含む生成物の製造を報告している。

【0005】

非特許文献3は、様々な配位子の存在下でCu(I)によって触媒される反応での2-プロモ安息香酸のサリチル酸、安息香酸、およびジフェン酸への変換を記載している。第三級テトラアミンは、Cu(I)と一緒にでの使用でジフェン酸の形成を最小限にする。

【0006】

非特許文献4は、2-クロロ安息香酸からのサリチル酸の合成方法を記載している。1モルの2-クロロ安息香酸当たり少なくとも1.0モルのピリジンなどの化学量論量のピリジン(1モルの2-クロロ安息香酸当たり0.5~2.0モル)が使用される。銅粉がピリジンと一緒に触媒として使用される。

10

【0007】

非特許文献5、および特許文献1は、5-プロモイソフタル酸、5-プロモイソフタル酸と、ジプロモイソフタル酸異性体と、それらの塩との混合物を、100~270の温度で銅触媒の存在下に水性のアルカリ性溶液中で加水分解することによる5-ヒドロキシイソフタル酸の製造方法を記載している。

【0008】

特許文献2は、相当するプロモフタル酸を、100~160の温度で銅触媒の存在下に水性のアルカリ性溶液中で加水分解することによる、4-ヒドロキシフタル酸、ならびに3-および4-ヒドロキシフタル酸の混合物の製造方法を開示している。開示された銅触媒の例には、Cu(0)、CuCl、CuCl<sub>2</sub>、Cu<sub>2</sub>O、CuO、CuBr<sub>2</sub>、CuSO<sub>4</sub>、Cu(OH)<sub>2</sub>、および酢酸銅(II)が挙げられる。

20

【0009】

ヒドロキシ安息香酸を製造するための様々な先行技術方法は、長い反応時間、著しい生産性損失をもたらす限定された転化率、または適度の速度および生産性を得るために圧力下におよび/またはより高温(典型的には140~250)で行う必要性によって特徴付けられる。それ故、固有の運転困難性が低く、かつ、小規模および大規模運転で高収率および高生産性で、そして回分式および連続運転で、ヒドロキシ安息香酸を経済的に製造することができる方法に対するニーズは依然としてある。

【先行技術文献】

30

【特許文献】

【0010】

【特許文献1】米国特許第5,703,274号明細書

【特許文献2】イスラエル国特許第112,706号明細書

【非特許文献】

【0011】

【非特許文献1】Journal fuer Praktische Chemie、138(1933)、103-106ページ

【非特許文献2】Jour. Indian Chem. Soc.、Vol. 34(1957)、No. 4、321-323ページ

【非特許文献3】Rusonikら著、Dalton Trans.、2003、2024-2028ページ

40

【非特許文献4】Comdomら著、Synthetic Communication 32(13)(2002)、2055-59ページ

【非特許文献5】Gelmontら著、Organic Process Research & Development、6(5)(2002)、591-596ページ

【発明の概要】

【課題を解決するための手段】

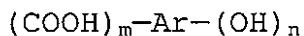
【0012】

本発明の一実施態様は、

式I

50

## 【化1】



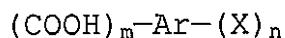
I

(式中、ArはC<sub>6</sub>～C<sub>20</sub>アリーレンラジカルであり、nおよびmはそれぞれ独立してゼロではない値であり、そしてn+mは8以下である)

の構造で一般に記載されるヒドロキシ芳香族酸の製造方法であって、

(a) 式 I I

## 【化2】



II

(式中、各Xは独立して、C1、BrまたはIであり、そしてAr、nおよびmは上述の通りである)

の構造で一般に記載されるハロゲン化芳香族酸を水中で塩基と接触させて水中でハロゲン化芳香族酸の相当するm-塩基性塩をそれから形成する工程と、

(b) ハロゲン化芳香族酸のm-塩基性塩を水中で塩基と、および銅に配位する配位子の存在下に銅源と接触させて、少なくとも約8の溶液pHでヒドロキシ芳香族酸のm-塩基性塩をハロゲン化芳香族酸のm-塩基性塩から形成する工程と、

(c) 場合により、ヒドロキシ芳香族酸のm-塩基性塩を、それが生じている反応混合物から分離する工程と、

(d) ヒドロキシ芳香族酸のm-塩基性塩を酸と接触させてn-ヒドロキシ芳香族酸をそれから形成する工程と

による方法を提供する。

## 【0013】

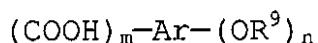
本発明のさらに別の実施態様は、上記の方法でn-ヒドロキシ芳香族酸を製造することと、次にn-ヒドロキシ芳香族酸をn-アルコキシ芳香族酸に転化することによるn-アルコキシ芳香族酸の製造方法を提供する。

## 【0014】

本発明のさらに別の実施態様はその結果として、

式 V I

## 【化3】

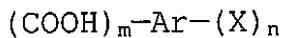


VI

(式中、ArはC<sub>6</sub>～C<sub>20</sub>アリーレンラジカルであり、各R<sup>9</sup>は独立して、置換または非置換C<sub>1</sub>～C<sub>10</sub>アルキル基であり、nおよびmはそれぞれ独立してゼロではない値であり、そしてn+mは8以下である)

の構造で一般に記載されるn-アルコキシ芳香族酸の製造方法であって、(a)式 I I

## 【化4】



II

(式中、各Xは独立して、C1、BrまたはIであり、そしてAr、nおよびmは上述の通りである)

の構造で一般に記載されるハロゲン化芳香族酸を水中で塩基と接触させて水中でハロゲン化芳香族酸の相当するm-塩基性塩をそれから形成する工程と、(b)ハロゲン化芳香族

10

20

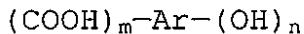
30

40

50

酸の m - 塩基性塩を水中で塩基と、および銅に配位する配位子の存在下に銅源と接触させて、少なくとも約 8 の溶液 pH でヒドロキシ芳香族酸の m - 塩基性塩をハロゲン化芳香族酸の m - 塩基性塩から形成する工程と、(c) 場合により、ヒドロキシ芳香族酸の m - 塩基性塩を、それが生じている反応混合物から分離する工程と、(d) ヒドロキシ芳香族酸の m - 塩基性塩を酸と接触させて式 I

## 【化 5】



I

(式中、Ar、n および m は上述の通りである)

の構造で一般に記載される n - ヒドロキシ芳香族酸をそれから形成する工程と、(e) n - ヒドロキシ芳香族酸を式 V I (式中、Ar、R<sup>9</sup>、n および m は上述の通りである) で一般に記載される n - アルコキシ芳香族酸に転化する工程とによる方法を提供する。

## 【0015】

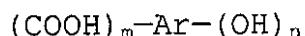
本発明のさらに別の実施態様は、2,5 - ジヒドロキシテレフタル酸または 2,5 - ジアルコキシテレフタル酸を、化合物、モノマー、オリゴマーまたはポリマーがそれから製造される反応に供する工程をさらに含む、上記のような 2,5 - ジヒドロキシテレフタル酸および / または 2,5 - ジアルコキシテレフタル酸の製造方法を提供する。

## 【0016】

本発明のさらに別の実施態様はその結果として、

式 I

## 【化 6】

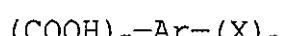


I

(式中、Ar は C<sub>6</sub> ~ C<sub>20</sub> アリーレンラジカルであり、n および m はそれぞれ独立してゼロではない値であり、そして n + m は 8 以下である)

の構造で一般に記載されるヒドロキシ芳香族酸を、(a) 式 I I

## 【化 7】



II

(式中、各 X は独立して、C<sub>1</sub>、B<sub>r</sub> または I であり、そして Ar、n および m は上述の通りである)

の構造で一般に記載されるハロゲン化芳香族酸を水中で塩基と接触させて水中でハロゲン化芳香族酸の相当する m - 塩基性塩をそれから形成する工程、(b) ハロゲン化芳香族酸の m - 塩基性塩を水中で塩基と、および銅に配位する配位子の存在下に銅源と接触させて、少なくとも約 8 の溶液 pH でヒドロキシ芳香族酸の m - 塩基性塩をハロゲン化芳香族酸の m - 塩基性塩から形成する工程、(c) 場合により、ヒドロキシ芳香族酸の m - 塩基性塩を、それが生じている反応混合物から分離する工程、(d) ヒドロキシ芳香族酸の m - 塩基性塩を酸と接触させて n - ヒドロキシ芳香族酸をそれから形成する工程により製造することと、(e) 場合により、n - ヒドロキシ芳香族酸を n - アルコキシ芳香族酸に転化する工程と、(f) n - ヒドロキシ芳香族酸および / または n - アルコキシ芳香族酸を、化合物、モノマー、オリゴマーまたはポリマーがそれから製造される反応に供する工程による化合物、モノマー、オリゴマーまたはポリマーの製造方法を提供する。

## 【0017】

さらに別の実施態様では、本明細書に記載される方法の 1 つまたはそれ以上における配位子は、シップ (S chiff) 塩基であってもよい。

## 【発明を実施するための形態】

10

20

30

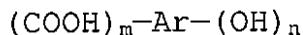
40

50

## 【0018】

本発明は、式 I

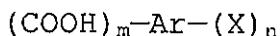
## 【化8】



I

の構造で一般に記載されるようなヒドロキシ芳香族酸を、式 II

## 【化9】



II

10

の構造で一般に記載されるようなハロゲン化芳香族酸を塩基と接触させてハロゲン化芳香族酸の m - 塩基性塩を形成する工程と、ハロゲン化芳香族酸の塩基性塩を塩基と、および銅に配位する配位子の存在下に銅源と接触させて n - ヒドロキシ芳香族酸の m - 塩基性塩を形成する工程と、次に n - ヒドロキシ芳香族酸の二塩基性塩を酸と接触させて n - ヒドロキシ芳香族酸生成物を形成する工程とにより製造するための高収率および高生産性方法を提供する。

## 【0019】

両式 I および II において、Ar は C<sub>6</sub> ~ C<sub>20</sub> アリーレンラジカルであり、n および m はそれぞれ独立してゼロではない値であり、そして n + m は 8 以下であり、そして式 I において、各 X は独立して Cl、Br または I である。「-Ar-」で示されるアリーレンラジカルは、芳香環上の、またはその構造が多環であるときは複数芳香環上の異なる炭素原子から 2 個以上の水素の除去によって形成される多価芳香族ラジカルである。その結果として、例えば、アリーレンラジカルにおいて、水素がベンジル環上の 2 個から全 6 個までの炭素原子から除去されてもよい、または水素がナフチルラジカルの 1 つか両方かのどちらかの環上の任意の 2 個および 8 個までの位置から除去されてもよい可能性がある。

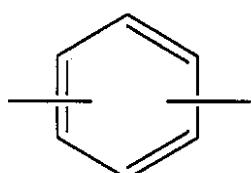
20

## 【0020】

アリーレンラジカル、「Ar」は、置換されていてもまたは非置換であってもよい。アリーレンラジカルは、非置換であるとき、炭素および水素のみを含有する 1 価基である。しかしながら、アリーレンラジカルにおいて、生じる構造が -O-O- または -S-S- 部分を全く含有しないという条件で、かつ、どの炭素原子も 2 個以上のヘテロ原子に結合していないという条件で、1 つまたはそれ以上の O または S 原子が場合により鎖中のまたは環中の炭素原子の任意の 1 つまたはそれ以上と置き換えられてもよい。好適なアリーレンラジカルの一例は、下に示されるような、フェニレンである。

30

## 【化10】



40

## 【0021】

「m - 塩基性塩」は、この用語が本明細書に用いられるところでは、交換可能な水素原子を有する m 個の酸基を各分子中に含有する酸から形成される塩である。

## 【0022】

本発明の方法で出発原料として使用されるべき、様々なハロゲン化芳香族酸は、商業的に入手可能である。例えば、2 - プロモ安息香酸は、Aldrich Chemical Company (Milwaukee, Wisconsin) から入手可能である。しかしながら、それは、Sasson ら著、Journal of Organic Ch

50

emistry, 51 (15) (1986)、2880-2883ページに記載されているようにプロモメチルベンゼンの酸化によって合成することができる。使用することができる他のハロゲン化芳香族酸には、限定なしに2,5-ジプロモ安息香酸、2-プロモ-5-ニトロ安息香酸、2-プロモ-5-メチル安息香酸、2-クロロ安息香酸、2,5-ジクロロ安息香酸、2-クロロ-3,5-ジニトロ安息香酸、2-クロロ-5-メチル安息香酸、2-プロモ-5-メトキシ安息香酸、5-プロモ-2-クロロ安息香酸、2,3-ジクロロ安息香酸、2-クロロ-4-ニトロ安息香酸、2,5-ジクロロテレフル酸、および2-クロロ-5-ニトロ安息香酸が含まれ、それらの全ては商業的に入手可能である。

【0023】

10

本発明の方法で出発原料として有用な他のハロゲン化芳香族酸には、下の表の左列に示されるものが含まれ、表中で、 $X = Cl$ 、 $Br$ または $I$ であり、表中で、本発明の方法によってそれから製造される相当するヒドロキシ芳香族酸は右列に示される。

【0024】

【表1】

$(COOH)_m-Ar-(X)_n$ I	$(COOH)_m-Ar-(OH)_n$ II
	<img alt="Chemical structure II-93: 2,3-dihydro-1H-naphthalene-1,94-dicar

てヒドロキシ芳香族酸のm-塩基性塩をハロゲン化芳香族酸のm-塩基性塩から形成する。

【0026】

工程(a)および/または工程(b)に使用される塩基は、イオン性塩基であってもよく、そして特に、Li、Na、K、MgまたはCaの1つまたはそれ以上の水酸化物、炭酸塩、重炭酸塩、リン酸塩またはリン酸水素塩の1つまたはそれ以上であってもよい。使用される塩基は、水溶性、部分水溶性であってもよく、または塩基の溶解度は、反応が進行するにつれて、および/または塩基が消費されるにつれて増大するかもしれない。NaOHおよびNa<sub>2</sub>CO<sub>3</sub>が好ましいが、他の好適な有機塩基が、例えば、トリアルキルアミン(トリブチルアミンなど)、N,N,N',N'-テトラメチルエチレンジアミン、およびN-アルキルイミダゾール(例えば、N-メチルイミダゾール)からなる群から選択されてもよい。原則として、pHを8より上に維持するおよび/またはハロゲン化芳香族酸の反応中に生成する酸と結合することができるいかなる塩基も好適である。

10

【0027】

工程(a)および/または(b)に使用されるべき塩基の具体的な量は、塩基の強度に依存する。工程(a)においては、ハロゲン化芳香族酸を、好ましくは、ハロゲン化芳香族酸の1当量当たり少なくとも約m当量の水溶性塩基と接触させる。1「当量」は、この文脈で塩基について用いられるところでは、水素イオンの1モルと反応するであろう塩基のモル数であり;酸については、1当量は、水素イオンの1モルを供給するであろう酸のモル数である。

20

【0028】

工程(b)において、少なくとも約8、または少なくとも約9、または少なくとも約10、そして好ましくは約9~約11の溶液pHを維持するのに十分な塩基が使用されるべきである。従って、典型的には工程(b)において、ハロゲン化芳香族酸の二塩基性塩を、ハロゲン化芳香族酸のm-塩基性塩の1当量当たり、少なくとも約n当量の、水溶性塩基などの塩基と接触させる。

20

【0029】

しかしながら、代わりの実施態様では、反応の開始時に元々使用されるハロゲン化芳香族酸の1当量当たり反応混合物において、合計少なくとも約n+m+1当量の、水溶性塩基などの塩基を使用することが工程(a)および(b)において望ましいかもしれない。上記のような量で使用される塩基は、典型的には強塩基であり、典型的には周囲温度で加えられる。工程(b)に使用される塩基は、工程(a)に使用される塩基と同じものであっても、またはそれとは異なるものであってもよい。

30

【0030】

上述のように、工程(b)において、ハロゲン化芳香族酸のm-塩基性塩を、また、銅に配位する配位子の存在下に銅源と接触させる。銅源および配位子は、反応混合物に順次加えられてもよいし、または別途組み合わせられ(例えば、水もしくはアセトニトリルの溶液で)、そして一緒に加えられてもよい。銅源は水中で酸素の存在下に配位子と組み合わせられても、または水を含有する溶媒混合物と組み合わせられてもよい。

40

【0031】

銅源と配位子との反応混合物中に、ハロゲン化芳香族酸のm-塩基性塩の塩基性溶液中に一緒に存在することから、ヒドロキシ芳香族酸のm-塩基性塩、銅化学種、配位子、およびハロゲン化物塩を含有する水性混合物が得られる。必要ならば、ヒドロキシ芳香族酸のm-塩基性塩は、この段階および工程(d)における酸性化の前に[任意の工程(c)として]混合物から分離されてもよいし、そして別の反応にまたは他の目的向けにm-塩基性塩として使用されてもよい。

【0032】

ヒドロキシ芳香族酸のm-塩基性塩を次に、工程(d)においてそれをヒドロキシ芳香族酸生成物に転化するために酸と接触させる。m-塩基性塩をプロトン化するのに十分な強度の任意の酸が好適である。例には、限定なしに塩酸、硫酸およびリン酸が挙げられる

50

。

## 【0033】

工程 (a) および (b) についての反応温度は、好ましくは約 60 ~ 約 120 、より好ましくは約 75 ~ 約 95 であり、本方法は従って、様々な実施態様で反応混合物を加熱する工程を含む。溶液は典型的には、工程 (d) における酸性化が実施される前に放冷される。様々な実施態様では、酸素は反応の間ずっと排除されてもよい。

## 【0034】

銅源は銅金属 [「Cu (0)」]、1つまたはそれ以上の銅化合物、または銅金属と1つまたはそれ以上の銅化合物との混合物である。銅化合物は、Cu (I) 塩、Cu (II) 塩、またはそれらの混合物であってもよい。例には、限定なしに CuCl、CuBr、CuI、Cu<sub>2</sub>SO<sub>4</sub>、CuNO<sub>3</sub>、CuCl<sub>2</sub>、CuBr<sub>2</sub>、CuI<sub>2</sub>、CuSO<sub>4</sub>、および Cu (NO<sub>3</sub>)<sub>2</sub> が挙げられる。銅源の選択は、使用されるハロゲン化芳香族酸のアイデンティティに関して行われてもよい。例えば、出発ハロゲン化芳香族酸がプロモ安息香酸である場合、CuCl、CuBr、CuI、Cu<sub>2</sub>SO<sub>4</sub>、CuNO<sub>3</sub>、CuCl<sub>2</sub>、CuBr<sub>2</sub>、CuI<sub>2</sub>、CuSO<sub>4</sub>、および Cu (NO<sub>3</sub>)<sub>2</sub> が有用な選択の中に含まれられるであろう。出発ハロゲン化芳香族酸がクロロ安息香酸である場合、CuBr、CuI、CuBr<sub>2</sub> および CuI<sub>2</sub> が有用な選択の中に含まれられるであろう。CuBr および CuBr<sub>2</sub> が一般に、ほとんどのシステムにとって好ましい選択である。使用される銅の量は典型的には、ハロゲン化芳香族酸のモルを基準として約 0.1 ~ 約 5 モル % である。

。

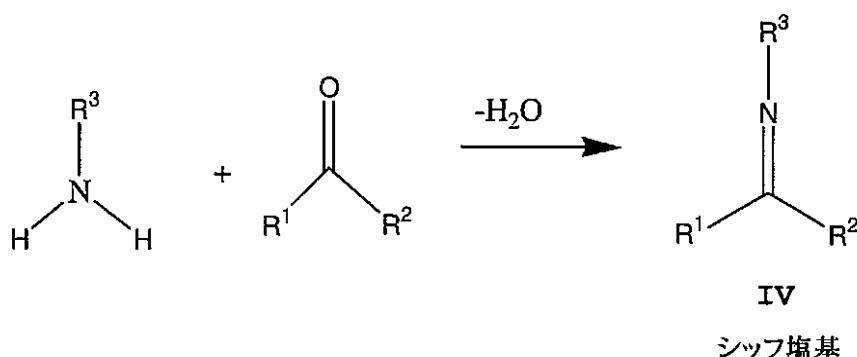
## 【0035】

銅源が Cu (0) であるとき、Cu (0)、臭化銅および配位子は、空気の存在下に組み合わせられてもよい。Cu (0) または Cu (I) の場合には、前もって定められた量の金属および配位子が水中で組み合わせられてもよく、そして生じた混合物は、着色溶液が形成されるまで空気または希薄酸素と反応させられてもよい。生じた金属 / 配位子溶液は、水中にハロゲン化芳香族酸の m - 塩基性塩および塩基を含有する反応混合物に加えられる。

## 【0036】

配位子はシップ塩基であってもよい。用語「シップ塩基」は、本明細書で用いるところでは、式 I V に示されるものなどの、窒素原子がアリール基またはアルキル基に結合しているが水素に結合していない状態で、炭素 - 窒素二重結合を含有する化合物の官能基またはタイプを意味する。それは典型的には、下記などの反応スキームによって製造される、第一級アミンとケトンまたはアルデヒドとの縮合生成物である：

## 【化 11】



式中、R<sup>1</sup>、R<sup>2</sup> および R<sup>3</sup> はそれぞれ独立して、置換および非置換 C<sub>1</sub> ~ C<sub>16</sub> の n - アルキル、イソ - アルキルおよび第三アルキル基、ならびに置換および非置換 C<sub>6</sub> ~ C<sub>30</sub> アリールおよびヘテロアリール基から選択される。

## 【0037】

一実施態様では、配位子として本明細書での使用に好適なシップ塩基には、式 V

10

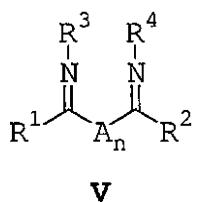
20

30

40

50

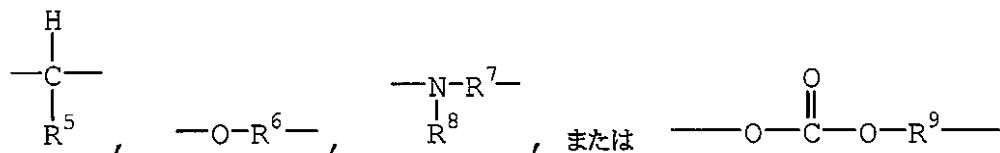
## 【化12】



(式中、Aは、

## 【化13】

10



からなる群から選択され、

$\text{R}^1$ 、 $\text{R}^2$ 、 $\text{R}^3$ および $\text{R}^4$ はそれぞれ独立して、置換および非置換 $\text{C}_{1\sim 6}$ の $n$ -アルキル、イソ-アルキルおよび第三アルキル基、ならびに置換および非置換 $\text{C}_{6\sim 30}$ アリールおよびヘテロアリール基から選択され、

20

$\text{R}^5$ は、H、置換および非置換 $\text{C}_{1\sim 6}$ の $n$ -アルキル、イソ-アルキルおよび第三アルキル基、ならびに置換および非置換 $\text{C}_{6\sim 30}$ アリールおよびヘテロアリール基、ならびにハロゲンから選択され、

20

$\text{R}^6$ 、 $\text{R}^7$ 、 $\text{R}^8$ および $\text{R}^9$ はそれぞれ独立して、Hまたは置換もしくは非置換 $\text{C}_{1\sim 6}$ の $n$ -アルキル、イソ-アルキルもしくは第三アルキル基から選択され、そして $n=0$ または1である)

で一般に記載されるものなどのジイミンが含まれる。

## 【0038】

30

用語「非置換」は、上記のようなシップ塩基中のアルキルまたはアリール基に関して用いられるところでは、アルキルまたはアリール基が炭素および水素以外の原子を全く含有しないことを意味する。しかしながら、置換アルキルまたはアリール基において、生じる構造が $-O-O-$ または $-S-S-$ 部分を全く含有しないという条件で、かつ、どの炭素原子も2個以上のヘテロ原子に結合していないという条件で、1つまたはそれ以上のOまたはS原子が場合により鎖中のまたは環中の炭素原子の任意の1つまたはそれ以上と置き換えられてもよい。

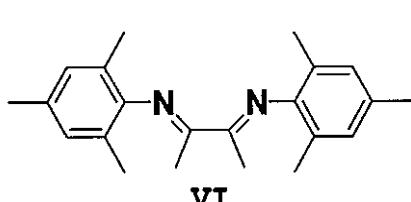
## 【0039】

30

別の実施態様では、配位子として本明細書での使用に好適なジイミンには、 $\text{N}, \text{N}'$ -ジメシチル-2,3-ジイミノブタン(式VIで一般に記載されるような)

## 【化14】

40



が含まれる。

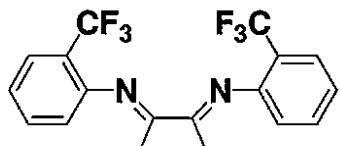
この場合、 $n=0$ 、 $\text{R}^1=\text{R}^2$ =メシチルであり、 $\text{R}^3$ および $\text{R}^4$ は一緒になって、2つの窒素原子に結合した $\text{C}_6\text{H}_3-\text{C}-\text{C}-\text{C}_6\text{H}_3$ 部分を形成している。

## 【0040】

50

さらなる実施態様では、配位子として本明細書での使用に好適なジイミンには、N, N'-ジ(トリフルオロメチルベンゼン)-2,3-ジイミノエタン(式VIIで一般に記載されるような)が含まれる。

## 【化15】



VII

10

この場合、n = 0、R<sup>1</sup> = R<sup>2</sup> = (トリフルオロメチル)ベンジルであり、R<sup>3</sup>およびR<sup>4</sup>は一緒になって、2つの窒素原子に結合したCH<sub>3</sub>-C-C-CH<sub>3</sub>部分を形成している。

## 【0041】

本明細書での使用に好適な配位子は、上記の名称または構造で記載された配位子の全集団のメンバーの任意の1つまたはそれ以上または全てとして選択されてもよい。しかしながら、好適な配位子はまた、全集団のサブグループのメンバーの任意の1つまたはそれ以上または全てとして選択されてもよく、ここで、サブグループは任意のサイズ(例えば1、2、6、10または20)であってもよいし、およびここで、サブグループは上記のような全集団のメンバーの任意の1つまたはそれ以上を除外することによって形成される。結果として、配位子は、かかる場合には、上記のような配位子の全集団から形成されてもよい任意のサイズの任意のサブグループのメンバーの1つまたはそれ以上または全てとして選択されてもよいのみならず、配位子はまたサブグループを形成するために全集団から除外されたメンバーの不存在下に選択されてもよい。

20

## 【0042】

様々な実施態様では、配位子は、銅の1モル当たり約1～約10、好ましくは約1～約2モル当量の配位子の量で提供されてもよい。それらのおよび他の実施態様では、配位子のモル当量対ハロゲン化芳香族酸のモル当量の比は、約0.1以下であってもよい。本明細書で用いるところでは、用語「モル当量」は、1モルの銅と相互作用するであろう配位子のモル数を示唆する。

30

## 【0043】

ハロゲン化芳香族酸が臭素化芳香族酸であるとき、銅源はCu(0)および/またはCu(I)塩であってもよく、それは水、または水を含有する溶媒混合物中で酸素の存在下に配位子と組み合わせられてもよい。あるいはまた、Cu(I)塩がCuBrであり、そして配位子が上に具体的に記載されたシップ塩基の1つ[N,N'-ジメチル-2,3-ジイミノブタンまたはN,N'-ジ(トリフルオロメチルベンゼン)-2,3-ジイミノエタンなど]であるとき、配位子は、銅の1モル当たり2モル当量の量で提供されてもよく、CuBrは水および空気の存在下に配位子と組み合わせられてもよい。

40

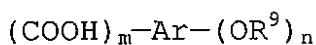
## 【0044】

配位子は、触媒としての銅源の作用を容易にすると考えられ、および/または銅源および配位子は、触媒としての役割を果たすために一緒に機能して反応の1つまたはそれ以上の属性を改善すると考えられる。

## 【0045】

上記の本方法はまた、式V:

## 【化16】



VI

50

(式中、 $A$   $r$ 、 $m$  および  $n$  は上述の通りに記載され、各  $R^9$  は独立して、置換または非置換  $C_{1-10}$  アルキル基である)

の構造で一般に記載されてもよい、 $n$  - アルコキシ芳香族酸などの、関連化合物の効果的なおよび効率的な合成を可能にする。 $R^9$  は、非置換であるとき、炭素および水素のみを含有する一価の基である。しかしながら、任意のかかるアルキル基において、生じる構造が - O - O - または - S - S - 部分を全く含有しないという条件で、かつ、どの炭素原子も 2 個以上のヘテロ原子に結合していないという条件で、1 つまたはそれ以上の O または S 原子が場合により鎖中の炭素原子の任意の 1 つまたはそれ以上と置き換えられてもよい。

【0046】

本発明の方法によって製造されるような、 $n$  - ヒドロキシ芳香族酸は、 $n$  - アルコキシ芳香族酸に転化されてもよく、かかる転化は、例えば、ヒドロキシ芳香族酸を塩基性条件下に式  $(R^9)_n SO_4$  の  $n$  - アルキル硫酸と接触させることによって成し遂げられてもよい。かかる転化反応を行う好適な一方法は、オーストリア国特許第 265,244 号明細書に記載されている通りである。かかる転化に好適な塩基性条件は、上記のものなどの 1 つまたはそれ以上の塩基を使用して、少なくとも約 8、または少なくとも約 9、または少なくとも約 10、好ましくは約 9 ~ 約 11 の溶液 pH である。

【0047】

ある種の実施態様では、 $n$  - ヒドロキシ芳香族酸を、それを  $n$  - アルコキシ芳香族酸に転化する前にそれが形成された反応混合物から分離することが望ましいかもしれない。

【0048】

上記の本方法はまた、化合物、モノマー、またはそのオリゴマーもしくはポリマーなどの、生じた 2,5 - ジヒドロキシテレフタル酸または 2,5 - ジアルコキシテレフタル酸から製造される生成物の効果的なおよび効率的な合成を可能にする。これらの製造される物質は、エステル官能性、エーテル官能性、アミド官能性、イミド官能性、イミダゾール官能性、カーボネート官能性、アクリレート官能性、エポキシド官能性、ウレタン官能性、アセタール官能性、および酸無水物官能性の 1 つまたはそれ以上を有してもよい。

【0049】

本発明の方法によって製造された物質、またはかかる物質の誘導体を含む代表的な反応には、例えば、米国特許第 3,047,536 号明細書（あらゆる目的のために本明細書の一部として全体が援用される）に開示されているような、窒素下に 1 - メチルナフタレン中 0.1 % の  $Zn_3(BO_3)_2$  の存在下での 2,5 - ジヒドロキシテレフタル酸と、ジエチレングリコールかトリエチレングリコールのどちらかとからのポリエステルの製造が含まれる。同様に、2,5 - ジヒドロキシテレフタル酸は、米国特許第 3,227,680 号明細書（あらゆる目的のために本明細書の一部として全体が援用される）において熱安定化ポリエステルを製造するために二塩基酸とグリコールとの共重合に好適であるとして開示されており、ここで、代表的な条件は、200 ~ 250 でブタノール中チタンテトライソブロポキシドの存在下にブレポリマーを形成する工程、引き続く 0.08 mmHg の圧力で 280 での固相重合を含む。

【0050】

2,5 - ジヒドロキシテレフタル酸はまた、強ポリリン酸中でテトラアミノピリジンの三塩酸塩 - 水和物と、米国特許第 5,674,969 号明細書（あらゆる目的のために本明細書の一部として全体が援用される）に開示されているように、減圧下に 100 より上、約 180 以下でゆっくり加熱すること、引き続く水中での沈殿によって；または国際公開第 2006/104974 号パンフレットとして公開された、2005 年 3 月 28 出願の米国仮特許出願第 60/665,737 号明細書（あらゆる目的のために本明細書の一部として全体が援用される）に開示されているように約 50 ~ 約 110、次に 145 の温度でモノマーを混合してオリゴマーを形成し、そして次にこのオリゴマーを約 160 ~ 約 250 の温度で反応させることによって重合させられてきた。そのように製造されてもよいポリマーは、ポリ(1,4-(2,5 - ジヒドロキシ)フェニレン - 2

10

20

30

40

50

, 6 - ピリド [ 2 、 3 - d : 5 , 6 - d ' ] ビスイミダゾール) ポリマーまたはポリ [ ( 1 , 4 - ジヒドロジイミダゾ [ 4 , 5 - b : 4 ' , 5 ' - e ] ピリジン - 2 , 6 - ジイル ) ( 2 , 5 - ジヒドロキシ - 1 , 4 - フェニレン ) ] ポリマーなどの、ピリドビスイミダゾール - 2 , 6 - ジイル ( 2 , 5 - ジヒドロキシ - p - フェニレン ) ポリマーであってもよい。しかしながら、そのピリドビスイミダゾール部分は、ベンゾビスイミダゾール、ベンゾビスチアゾール、ベンゾビスオキサゾール、ピリドビスチアゾールおよびピリドビスオキサゾールのどれかまたはより多くで置き換えられてもよく；その 2 , 5 - ジヒドロキシ - p - フェニレン部分は、イソフタル酸、テレフタル酸、2 , 5 - ピリジンジカルボン酸、2 , 6 - ナフタレンジカルボン酸、4 , 4 ' - ジフェニルジカルボン酸、2 , 6 - キノリンジカルボン酸、および 2 , 6 - ビス ( 4 - カルボキシフェニル ) ピリドビスイミダゾールの 1 つまたはそれ以上の誘導体で置き換えられてもよい。

10

## 【実施例】

## 【0051】

本発明は、以下の実施例でさらに明確にされる。これらの実施例は本発明の好ましい実施態様を示すが、例示の目的のみで与えられることが理解されるべきである。上記の議論およびこれらの実施例から、当業者は、本発明の本質的な特性を確認することができ、その精神および範囲から逸脱することなく、それを様々な使用および条件に適合させるために本発明の様々な変更および修正を行うことができる。

## 【0052】

原材料：以下の原材料を実施例に使用した。全ての試薬は、受け取ったまま使用した。生成物純度は、<sup>1</sup>H NMR によって測定した。

## 【0053】

N , N ' - ジメチル - 2 , 3 - ジイミノブタンは、Journal of the American Chemical Society ( 2002 ) 、 124 ( 7 ) 、 1378 - 1399 ページでの手順に従って製造した。2 , 5 - ジブロモテレフタル酸 ( 95 + % 純度 ) は、Maybridge Chemical Company Ltd. ( Cornwall , United Kingdom ) から入手した。

## 【0054】

2 - アミノベンゾトリフルオリド [ 「 2 - ( トリフルオロメチル ) アニリン」 としても知られる ] ( 99 % 純度、カタログ番号 A 4 , 160 - 7 ) および 2 , 3 - ブタンジオン ( 97 % 純度、カタログ番号、 B 8 , 530 - 7 ) は、Aldrich Chemical Company ( Milwaukee , Wisconsin , USA ) から入手した。

20

## 【0055】

臭化銅 ( I ) ( 「 CuBr 」 ) ( 98 % 純度 ) は、Acros Organics ( Geel , Belgium ) から入手した。Na<sub>2</sub>CO<sub>3</sub> ( 99.5 % 純度 ) は、EM Science ( Gibbstown , New Jersey ) から入手した。

## 【0056】

本明細書で用いるところでは、用語「転化率」は、どれだけ多くの反応体が理論量の分率または百分率として使い尽くされたかを意味する。本明細書で用いるところでは、生成物 P についての用語「選択率」は、最終生成物混合物中の P のモル分率またはモル百分率を意味する。選択率 × 転化率は従って、P の最大「収率」に等しく、実際のまたは「正味」収率は普通、単離、ハンドリング、乾燥などのような活動の過程で被るサンプル損失のためにこれより幾分少ないのである。本明細書で用いるところでは、用語「純度」は、手持ちの単離サンプルの何パーセンテージが実際に特定の物質であるかを意味する。

40

## 【0057】

用語「H<sub>2</sub>O」および「水」は、本実施例で用いられるところでは、蒸留水を意味する。省略形の意味は次の通りである：「h」は時間を意味し、「min」は分を意味し、「mL」はミリリットルを意味し、「g」はグラムを意味し、「mg」はミリグラムを意味し、「mol」はモルを意味し、「mol equiv」はモル当量を意味し、「mmo

50

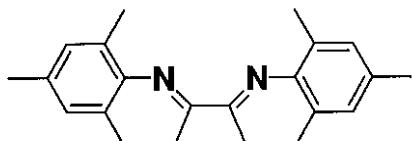
「 1 」はミリモルを意味し、「 D 」は密度を意味し、「 I R 」は赤外分光法を意味し、「 N M R 」は核磁気共鳴分光法を意味する。

【 0 0 5 8 】

実施例 1

本実施例は、 CuBr および N, N' - ジメシチル - 2, 3 - ジイミノブタンを使用する 2, 5 - ジブロモテレフタル酸からの 2, 5 - ジヒドロキシテレフタル酸の形成を実証する。

【 化 1 7 】



N, N' - ジメシチル - 2, 3 - ジイミノブタン

10

【 0 0 5 9 】

窒素下に、 2.00 g ( 6.2 ミリモル ) の 2, 5 - ジブロモテレフタル酸を 10 g の H<sub>2</sub>O と組み合わせ、 0.679 g ( 6.4 ミリモル ) の Na<sub>2</sub>CO<sub>3</sub> を次に加えた。混合物を、窒素雰囲気下のままで、攪拌しながら 30 分間加熱還流した。別の 0.950 g ( 9.0 ミリモル ) の Na<sub>2</sub>CO<sub>3</sub> を反応混合物に加え、還流を 30 分間続行した。別に、 9 mg ( 0.01 モル当量 ) の CuBr および 40 mg ( 0.02 モル当量 ) の N, N' - ジメシチル - 2, 3 - ジイミノブタンを窒素下に 2 mL の H<sub>2</sub>O と組み合わせた。生じた混合物を、 CuBr が溶解するまで空気雰囲気下に攪拌した。この溶液を、攪拌される反応混合物に窒素下に 80 でシリンジによって加え、 80 で 30 時間攪拌した。 25 に冷却した後、反応混合物を HCl ( 濃 ) で酸性化し、暗黄色沈殿を生み出した。黄色沈殿を濾過し、水で洗浄した。乾燥後に、合計 1.09 g の粗 2, 5 - ジヒドロキシテレフタル酸が得られた。 2, 5 - ジヒドロキシテレフタル酸の純度は約 81 % であると<sup>1</sup> H NMR によって測定された。 2, 5 - ジヒドロキシテレフタル酸の正味収率は 72 % であると測定された。

20

【 0 0 6 0 】

実施例 2

窒素下に、 2.01 g ( 10 ミリモル ) の 2 - プロモ安息香酸を 10 g の H<sub>2</sub>O と組み合わせた。 1.32 g ( 12.5 ミリモル ) の Na<sub>2</sub>CO<sub>3</sub> を次に加えた。混合物を、窒素雰囲気下のままで、攪拌しながら 60 分間加熱還流した。別に、 28 mg ( 0.0125 モル当量 ) の CuBr<sub>2</sub> および 80 mg ( 0.025 モル当量 ) の N, N' - ジメシチル - 2, 3 - ジイミノブタンを窒素下に組み合わせ、引き続き空気下に 2 mL の H<sub>2</sub>O を加えた。この溶液を、攪拌される反応混合物に窒素下に 80 でシリンジによって加え、 80 で 7 時間攪拌した。 25 に冷却した後、反応混合物を HCl ( 濃 ) で酸性化し、真っ白ではない沈殿を生み出した。沈殿を濾過し、水で洗浄し、乾燥させた。転化率およびサリチル酸の選択率は両方とも 97 % であると<sup>1</sup> H NMR によって測定された。正味収率は 94 % であると測定された。

30

【 0 0 6 1 】

実施例 3

N, N' - ジ ( トリフルオロメチルベンゼン ) - 2, 3 - ジイミノエタンは、次の通り製造した： 6 滴の 9.8 % ギ酸を含有する 1.5 mL メタノール中の 1.0. 2 mL ( 13.1 g, 81.2 ミリモル、 D = 1.28 ) の 2 - アミノベンゾトリフルオリドと 3.6 mL ( 3.5 g, 4.1 ミリモル、 D = 0.98 ) の新しく蒸留した 2, 3 - ブタンジオンとの混合物を、窒素下に 35 で 8 日間攪拌した。回転蒸発器 ( rotovap ) を用いて反応混合物から溶媒を除去し、得られた結晶性固形分 ( 1.3 g ) を四塩化炭素で洗浄した。結晶をクロロホルムに溶解させ、溶液を短いアルミナカラムに通し、蒸発させて 1.0

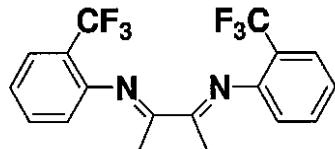
40

50

g のジイミンの黄色結晶をもたらした。

<sup>1</sup> H N M R ( C D C l <sub>3</sub> ) : 2 . 1 2 p p m ( s , 6 H , C H <sub>3</sub> ) ; 6 . 7 7 ( d , 2 H , A r H , J = 9 H z ) ; 7 . 2 0 ( t , 2 H , A r H , J = 7 H z ) ; 7 . 5 3 ( t , 2 H , A r H , J = 7 H z ) ; 7 . 6 8 ( t , 2 H , A r H , J = 8 H z ) 。 I R : 1 7 0 6 , 1 6 5 1 , 1 6 0 3 , 1 5 7 9 , 1 3 1 9 , 1 1 1 0 c m <sup>-1</sup> 。融点 : 1 5 4 ~ 1 5 6 。

【化 1 8】



10

N, N' -ジ(トリフルオロメチルベンゼン)-2,3-ジイミノエタン

【0 0 6 2】

窒素下に、2 . 0 1 g ( 1 0 ミリモル ) の 2 - ブロモ安息香酸を 1 0 g の H <sub>2</sub> O と組み合わせ、1 . 3 2 g ( 1 2 . 5 ミリモル ) の N a <sub>2</sub> C O <sub>3</sub> を次に加えた。混合物を、窒素雰囲気下のままで、攪拌しながら 6 0 分間加熱還流した。別に、2 2 m g ( 0 . 0 1 モル当量 ) の C u B r <sub>2</sub> および 8 0 m g ( 0 . 0 2 モル当量 ) の N , N ' - ジ(トリフルオロメチルベンゼン) - 2 , 3 - ジイミノエタンを窒素下に組み合わせ、引き続き空気下に 2 m L の H <sub>2</sub> O を加えた。この溶液を、攪拌される反応混合物に窒素下に 8 0 でシリジンによって加え、8 0 で 7 2 時間攪拌した。2 5 に冷却した後、反応混合物を H C l ( 濃 ) で酸性化し、真っ白ではない沈殿を生み出した。沈殿を濾過し、水で洗浄し、乾燥させた。転化率およびサリチル酸の選択率は、それぞれ、9 4 % および 9 6 % であると <sup>1</sup> H N M R によって測定された。正味収率は 9 0 % であると測定された。

20

【0 0 6 3】

本発明の方法がある種の工程を含む、包含する、含有する、有する、それらからなるまたはそれらによって構成されるとして記述されるかまたは記載される場合、その記述または記載がそれとは反対を明確に提供しない限り、明確に記述されるかまたは記載されるものに加えて 1 つまたはそれ以上の工程がその構成に存在してもよいことは理解されるべきである。しかしながら、代わりの実施態様では、本発明の方法は、ある種の工程から本質的になるとして記述されてもまたは記載されてもよく、その実施態様において本方法の操作の原理または特徴的な特性を実質的に変えるであろう工程はそれには存在しない。さらなる代わりの実施態様では、本発明の方法は、ある種の工程からなるとして記述されてもまたは記載されてもよく、その実施態様において具体的に記述されたまたは記載されたもの以外の工程はそれには存在しない。

30

【0 0 6 4】

本発明の実施態様が、ある種の特徴を含む、包含する、含有する、有する、それらからなるまたはそれらによって構成されるとして記述されるかまたは記載される場合、その記述または記載がそれとは反対を明確に提供しない限り、明確に記述されるかまたは記載されるものに加えて 1 つまたはそれ以上の特徴がその実施態様に存在してもよいことは理解されるべきである。しかしながら、本発明の代わりの実施態様は、ある種の特徴から本質的になるとして記述されてもまたは記載されてもよく、その実施態様において実施態様の操作の原理または特徴的な特性を実質的に変えるであろう実施態様特徴はそれには存在しない。本発明のさらなる代わりの実施態様は、ある種の特徴からなるとして記述されてもまたは記載されてもよく、その実施態様において、またはそのごくわずかな変形において、具体的に記述されるかまたは記載される特徴が存在するにすぎない。

40

【0 0 6 5】

不定冠詞「 a 」または「 a n 」が本発明の方法における工程の存在についての記述また

50

は記載に関して用いられる場合、その記述または記載がそれとは反対を明確に提供しない限り、かかる不定冠詞の使用は本方法における工程の存在を数で1つに限定しないことは理解されるべきである。

【0066】

数値の範囲が本明細書に列挙される場合、特に明記しない限り、その範囲は、その終点、その範囲内の全ての整数および分数を含むことを意図される。本発明の範囲は、ある範囲を定義するときに列挙される具体的な値に限定されることは意図されない。

## 【国際調査報告】

## INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No
PCT/US2007/024474

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER
INV. C07C51/02 C07C51/367 C07C51/41 C07C65/05 C07C65/03
C07C65/10

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

## B. FIELDS SEARCHED

Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)  
C07C

Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practical, search terms used)

EPO-Internal, CHEM ABS Data

## C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
A	RUSONIK, IRENA ET AL: "Cu(I)(2,5,8,11-tetramethyl-2,5,8,11-tetra azadodecane)+ as a catalyst for Ullmann's reaction" DALTON TRANSACTIONS, (10), 2024-2028 CODEN: DTARAF; ISSN: 1477-9226, 2003, XP002472757 cited in the application the whole document -/-	1

Further documents are listed in the continuation of Box C.

See patent family annex.

## \* Special categories of cited documents :

- "A" document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance
- "E" earlier document but published on or after the international filing date
- "L" document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified)
- "O" document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means
- "P" document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed

"T" later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention

"X" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone

"Y" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art.

"&" document member of the same patent family

Date of the actual completion of the international search  2 April 2008	Date of mailing of the international search report  11/04/2008
Name and mailing address of the ISA/ European Patent Office, P.B. 5818 Patentlaan 2 NL - 2280 HV Rijswijk Tel. (+31-70) 340-2040, Tx. 31 651 epo nl Fax: (+31-70) 340-3016	Authorized officer  Delanghe, Patrick

## INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No  
PCT/US2007/024474

C(Continuation). DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT		
Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
A	COMDOM, ROLANDO F. PELLON ET AL: "Synthesis of salicylic acid derivatives from the corresponding 2- chlorobenzoic acid using water as solvent" SYNTHETIC COMMUNICATIONS , 32(13), 2055-2059 CODEN: SYNCV; ISSN: 0039-7911, 2002, XP002472756 cited in the application page 2056 - page 2057	1
A	CRISTAU, H.-J. ET AL: "Mild Conditions for Copper-Catalysed N-Arylation of Pyrazoles" EUROPEAN JOURNAL OF ORGANIC CHEMISTRY, 2004, pages 695-709, XP002473035 abstract	1

## フロントページの続き

(51) Int.Cl. F I テーマコード(参考)  
C 0 7 B 61/00 (2006.01) C 0 7 B 61/00 3 0 0

(81) 指定国 AP(BW,GH,GM,KE,LS,MW,MZ,NA,SD,SL,SZ,TZ,UG,ZM,ZW),EA(AM,AZ,BY,KG,KZ,MD,RU,TJ,TM),EP(AT,BE,BG,CH,CY,CZ,DE,DK,EE,ES,FI,FR,GB,GR,HU,IE,IS,IT,LT,LU,LV,MC,MT,NL,PL,PT,RO,SE,SI,SK,TR),OA(BF,BJ,CF,CG,CI,CM,GA,GN,GQ,GW,ML,MR,NE,SN,TD,TG),AE,AG,AL,AM,AT,AU,AZ,BA,BB,BG,BH,BR,BW,BY,BZ,CA,CH,CN,CO,CR,CU,CZ,DE,DK,DM,DO,DZ,EC,EE,EG,ES,FI,GB,GD,GE,GH,GM,GT,HN,HR,HU,ID,IL,IN,IS,JP,KE,KG,KM,KN,KP,KR,KZ,LA,LC,LK,LR,LS,LT,LU,LY,MA,MD,ME,MG,MK,MN,MW,MX,MY,MZ,NA,NG,NI,NO,NZ,OM,PG,PH,PL,PT,RO,RS,RU,SC,SD,SE,SG,SK,SL,SM,SV,SY,TJ,TM,TN,TR,TT,TZ,UA,UG,US,UZ,VC,VN,ZA,ZM,ZW

(72) 発明者 ヨアヒム・シー・リッター

アメリカ合衆国デラウェア州 19810. ウィルミントン. ブロードベントロード 121

F ターム(参考) 4G169 AA02 AA06 AA09 BA27A BA27B BA47A BB08C BB10C BB12C BC31A  
BC31B BD12A BD13A BD13B BD14A BE01A BE01B BE13A BE13B BE34A  
BE34B BE37A BE37B CB25 CB70 FC02 FC08  
4H006 AA02 AC41 BA05 BA37 BA46 BE60 BJ50 BN30 BS30  
4H039 CA60 CD20  
4J043 PA02 PC065 PC066 QB41 RA42 SA08 SB01 TA03 TA12 TA71  
TB01 UA122 UA421